



4. 火災現場のようす

それぞれの隊員には、どのような役割があるのか見てみよう。

市内には、さまざまな火災や事故にも対応できるように、約200台の消防車とヘリコプターがあります。



1 水槽車
車からホースをのびして消火します。ホースは水の勢いで大きく揺れるため、二人で持って消火します。



2 救助車
いろいろな道具を使って、逃げ遅れた人や動けなくなった人を助け出し、安全に避難させます。



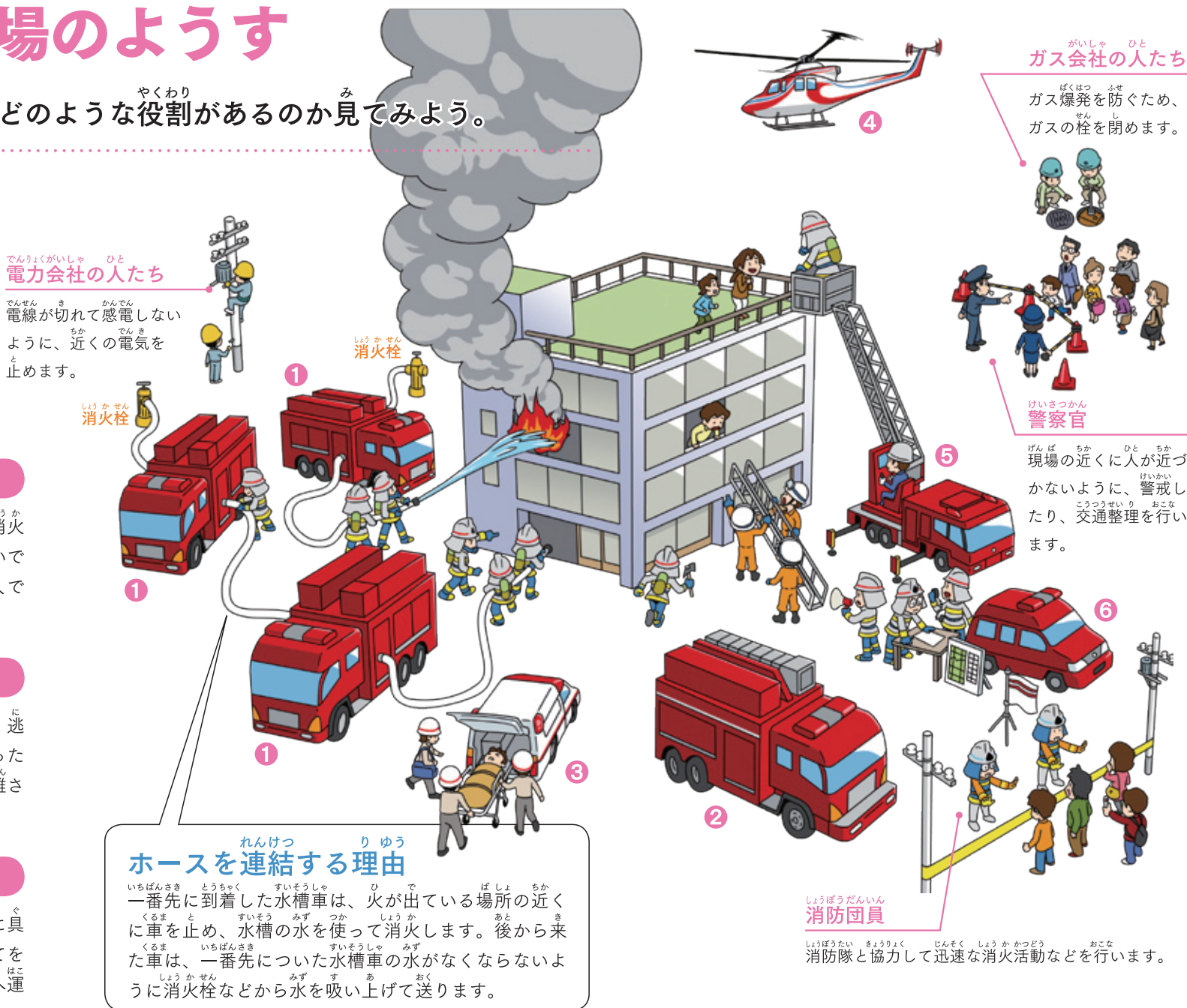
3 救急車
火災でケガをしたり、急に具合が悪くなった人に手当てをしながら、いち早く病院へ運びます。



4 ヘリコプター
空から山火事などを消火したり、ビルの屋上から逃げ遅れた人を助けたり、ケガをした人を運びます。

？ 消防車はどうして赤いの？

消防車の色は赤く見えますが、実は朱色（黄色みを帯びた赤色）です。日本の消防車は法律で朱色にすると決まっています。朱色には火のイメージがあり、道路を走っていてもよく目立つため、朱色になっています。



5 はしご車
高い建物の火災を消したり、人を助けます。また、ホースをつないで水を出すこともできます。



6 指揮車
通報者や建物の持ち主から、逃げ遅れた人がいないかなど必要な情報を集め、活動している消防隊にさまざまな命令を出します。



火災調査車
火災の原因や被害の状況などを調査するため、カメラなどいろいろな道具が入っています。



水槽救助車
水槽車と救助車の能力を持ち、火を消したり、人を助け出したりする道具をつんでいます。

その他の消防車



小型救助車
大きな地震や自然災害の影響で通りづらくなった道やせまい道でも走ることができる小型のオフロード車です。



化学水槽車
水では消せない油からの火災を、薬の入った泡を出して消火します。



支援工作車
大きなテントや消火薬剤など災害に合わせた、たくさんの種類の道具が入っています。



山岳救助車
登山中などにケガや、急に具合が悪くなった人を助けるための道具が入っています。山道など狭い道も走ることができます。



支援車
大きな災害の時、食事や休憩をとるなど隊員の消防活動を支えます。



重機
大規模災害発生時に道路上の障害物や壊れた家のがれきなどを取り除く作業を行います。



燃料補給車
大規模災害発生時に消防部隊が長い時間活動を行うことができるよう、災害現場において消防車両の燃料（軽油）を補給します。



特別高度工作車
高圧の水を噴射しコンクリートや金属を切断するウォーターカッター装置と火災の煙や熱気等の排出を行うための大型の送風機（ブローア）を兼ね備えた車です。